

平成 25 年度 事業計画

財団法人千里文化財団は、新公益法人制度の施行に伴い本年 4 月 1 日に一般財団法人へ移行することになりました。平成 25 年度の事業計画の事業区分は、第 60 回理事会で決議された一般財団法人千里文化財団の定款に基づき作成しております。

1. 民族学・文化人類学等普及事業

一般市民を対象に、民族学・文化人類学の普及のため、国内唯一の民族学・文化人類学の研究センターである国立民族学博物館の協力のもと、学術情報をわかりやすく提供する各種事業を企画・実施する。

1) 国立民族学博物館収蔵資料「梅棹忠夫アーカイブズ」の整理及びデータの整備

国立民族学博物館に収蔵された膨大な梅棹忠夫アーカイブズ資料を整理して、総合的に関連付けた基礎データを作成する。この基礎データは、研究者による内容把握や相互関連などの研究に資するとともに、最終的には、日本の民族学研究史、探検史、梅棹忠夫の学問体系の成立過程の解明などに関する研究者の分析結果を動的に反映できる、参加型・成長型の梅棹忠夫デジタルアーカイブズの構築の基本情報となるものである。

2) 民族学・文化人類学の研究促進・普及を目的とした図書企画・編集・発行

国立民族学博物館友の会会員をはじめ、一般市民を対象とする家庭学術雑誌『季刊民族学』4号（144号～147号）の編集、発行及び集広をおこなう。

『季刊民族学』特集のテーマ

144号（4月25日発行）「機織りの現場から」吉本 忍（民博教授）ほか

145号（7月25日発行）「水を考える」杉本 良男（民博教授）ほか

146号（10月25日発行）※式年関連で企画準備中

147号（1月25日発行）「文化人類学と祖父江孝男」川田 順造（東京外国語大学名誉教授）ほか

3) 民族学・文化人類学の普及を目的とした各種講演会及びセミナー等の企画・運営

国立民族学博物館友の会会員をはじめ、一般市民を対象に「友の会講演会」を大阪で12回、東京他で5回の開催をおこなう。「みんぱく見学会」2回、「体験セミナー」2回、「民族学研修の旅」2回、ワークショップ2回を下記のとおり実施する。

① 国立民族学博物館友の会講演会

大阪：毎月第1土曜日 14:00～15:00 国立民族学博物館（懇談会 15:10～16:10）

通算回数（開催日）：講師(所属) / 「演題」

第418回（4月6日）：飯田 卓（民博准教授） /

特別展「マダガスカル」関連「マダガスカル中央高地のザフィマニリ文化」

第419回（5月4日）：ゴルダン・ニコロフ（民博客員研究員） /

「マケドニアの陶器と食文化」

- 第 420 回 (6 月 1 日) : 菅瀬 晶子 (民博助教) /
「金曜日はムジャッタラの日—アラビア語圏キリスト教徒の暮らし」
- 第 421 回 (7 月 6 日) : 野林 厚志 (民博教授) /
新日本の文化展示関連「罽獺のイノベーション —動物との根比べ」
- 第 422 回 (8 月 3 日) : 池谷 和信 (民博教授) /
新日本の文化展示関連「日本の森とミツバチと人」
- 第 423 回 (9 月 7 日) : 伊藤 敦規 (民博助教) /
みんぱくコレクションを語る「カチーナ人形の作り手たち—40 年後の「もの語り」の可能性」
- 第 424 回 (10 月 5 日) : 小島 摩文 (鹿児島純心女子大学教授) /
特別展「屋根裏部屋の博物館」関連「渋沢敬三の「民具」へのこだわり」
- 第 425 回 (11 月 2 日) : 小山 修三 (財団理事長・民博名誉教授) /
「くすりの民族学」
- 第 426 回 (12 月 7 日) : 信田 敏宏 (民博准教授) /
「ドリアン王国探訪記」
- 第 427 回 (1 月 11 日) : 藤本 透子 (民博助教) /
みんぱくコレクションを語る「カザフスタンの収集から (仮)」
- 第 428 回 (2 月 1 日) : 関 雄二 (民博教授) /
「アンデス文明の神殿更新説について (仮)」
- 第 429 回 (3 月 1 日) : 未定 /
「未定」

東京 : 14:00~15:00 (懇談会 15:10~16:10)

- 通算回数 (開催日) : 講師 (所属) / 開催場所 / 「演題」
- 第 106 回 (6 月 30 日) : 小長谷 有紀 (民博教授) / モンベル渋谷店 /
「トゥバ人たちの住むところ—21 世紀の「探検」談」
- 第 107 回 (12 月 21 日) : 三尾 稔 (民博准教授) / モンベル品川店 /
「インド・ラージャスターンの婚礼 (仮)」
- 第 108 回 (2 月中旬) : 須藤 健一 (民博館長) / 国立新美術館 /
「記念展覧会「イメージの力」関連 (仮)」

② **みんぱく見学会** 大阪 : 土曜日 15:10~16:10、国立民族学博物館展示場で開催

- 通算回数 (開催日) : 「展示名」 / 講師(所属)
- 第 49 回 (4 月 6 日) : 特別展「マダガスカル」 / 飯田 卓 (民博准教授)
- 第 50 回 (10 月 5 日) : 特別展「屋根裏部屋の博物館」 / 小島 摩文 (鹿児島純心女子大学教授)

③ 体験セミナー

通算回数（開催日）： 講師(所属) / 開催地 / 「演題」 / 内容

第 67 回（10 月 26 日・土、27 日・日）：日高 真吾（民博准教授） /

福井県若狭町 / 「日本最古の漆発掘現場を訪ねる（仮）」 /

鳥浜貝塚で発掘された日本最古の漆を見学。日本文化における漆工芸の位置づけと漆の伝播について学とともに、漆工芸職人からその技巧と漆の役割等を教えてもらう。

第 68 回 企画検討中

④ 民族学研修の旅

通算回数（開催期間）：「タイトル」 / 同行講師(所属) / 内容

第 82 回（7 月 9 日・火～20 日・木 12 日間）：「マダガスカル森と海を訪ねる」 /

飯田 卓（民博准教授）

春の特別展「マダガスカル」の展示に協力いただいたザフィマニリの村を訪ね、特別展によせられた来館者の感想を届けるとともに、現地でいまでも生活のなかに息づいている手仕事を体験することとおして、彼らとの交流を深める。

第 83 回（11 月 21 日・木～29 日・金 9 日間）：「ベトナム西北部 少数民族の世界へ」 /

樫永 真佐夫（民博准教授）

講師の調査地の村を訪ね、伝統的な家屋での宿泊や村のもてなしの宴会などを設けてもらい、現地の生活を体験し、村の人びととの交流をはかる。多くの少数民族がくらす地域の 2 つの村を訪ね、そこに滞在してそれぞれのくらしを知るほか、市場などでさらに多くの民族とも接する。各民族の相違や多様な少数民族がくらす地域、社会について理解を深める。

⑤ ワークショップ

親子で体験「泥ってすごい！おもしろい！— すまいと土を考える」

親子が一緒になって、世界の人びとの生活や文化を学ぶこととおして、「身近なものを、自分の力で利用し、生きていく」智恵と技術に対する感覚を養いってもらう。本年度のテーマは、世界各地にある土を材料にしてつくられる家や建造物について、体験しながら学ぶ機会を提供する。

プログラム：土壁ぬり体験・ミニかまど作り・光る泥だんご作り・講演等

実施時期：10 月 12 日・土～13 日・日

主 催：一般財団法人千里文化財団

助 成：独立行政法人日本万国博覧会記念機構

協 力：国立民族学博物館

会 場：国立民族学博物館 特別展地下休憩所

2. 国立民族学博物館利用促進事業

国立民族学博物館の利用の促進を目的として、一般市民を対象に、各種協力事業を実施することにより利用者の便宜を図る。

1) 国立民族学博物館の展示理解向上及び普及のための教材制作及び頒布事業

- ① 国立民族学博物館 本館展示の『展示ガイド』の編集協力・制作及び頒布
- ② 国立民族学博物館 特別展及び企画展の解説書の編集・制作及び頒布
- ③ 国立民族学博物館の映像資料の複製発行及び頒布、展示品のレプリカ・ポストカード、記念品等の制作及び頒布、現地産民族資料及び民族学・文化人類学関連図書の頒布
- ④ 国立民族学博物館オリジナルカレンダーの制作・発行及び頒布

2) 国立民族学博物館の普及事業

- ① 「国立民族学博物館友の会」の運営
「国立民族学博物館友の会」は国立民族学博物館と市民の間のかけはしとなる役目を担い、会員に、講演会などの催しものや出版物などをおして、民博のさまざまな活動や研究成果を紹介。
- ② 「国立民族学博物館友の会」会員（維持会員・正会員・キャンパスメンバーズ・フリーパス）の増強
外部受付（大手書店）用の広報ツールを作成し、外部受付を友の会の広報拠点として強化する。
- ③ 国立民族学博物館広報誌『月刊みんぱく』の編集協力・制作及び編集事務を受託し実施

3) 国立民族学博物館来館者の学習支援事業

- ① 「展示解説シート」の編集協力・制作
- ② 展示案内学習支援等業務を受託し実施
- ③ 研究資料整理・情報化及び利用管理業務を受託し実施
- ④ 民族学資料共同利用窓口業務を受託し実施
- ⑤ 関連催し物の開催支援及び運営事業
研究公演の運営を受託し実施

4) 国立民族学博物館活動に協力する事業

国立民族学博物館特別展「マダガスカル ― 霧の森の暮らし」（春開催）、「渋沢敬三記念事業 屋根裏部屋の博物館」（秋開催）に対する協力として各種広報活動をおこなう。

3. 博物館活動支援及び調査研究事業

博物館に集積された知的財産を活用するプログラムを企画し、そのあり方を調査研究するとともに博物館活動を支援する。

1) 博物館に集積された資料と情報の活用方法及び博物館等の連携のあり方に関する調査研究

- ① 出前授業プログラム開発及び普及
- ② 各地の博物館等の施設を活用する巡回展
- ③ 博物館等に収蔵された資料を活用する展覧会

- 2) 博物館運営や展示のあり方に関する調査研究
 - ① 指定管理者制度における博物館運営に関する調査研究
 - ② 巡回展のための什器に関する調査
 - ③ 博物館におけるミュージアム・ショップの役割に関する調査研究
- 3) 各地の博物館展示案内等の編集業務
 - ① 『富山市科学博物館 展示案内』（日本生命財団より受託）
 - ② 『鳥取県立博物館 展示案内』（同館より受託）

4.文化施設と連携した利用促進及び地域活性化事業

博物館及び周辺施設に集積された資料や情報を活かしながら、各施設と連携し一般市民に情報を享受する機会を創出する。

1) 万博公園賑わい創出支援事業の実施

スタンプラリー「万博・民博ものがたり」

万博記念公園および公園内各施設をより多くの人に活用してもらうため、ひろく広報をおこなう事業。万博記念公園とそこにある国立民族学博物館をはじめとする園内各施設の空間的・歴史的つながりをテーマにしたものがたりを作成し、各施設をそのものがたりで結び、スタンプラリーで周遊してもらうことをとおして、万博記念公園と園内各施設を一体的にアピールすることで、来場者の増加をめざす。そのことをとおして、単なる公園としてのみでなく、世界に開く文化ゾーンとしての存在や意義、さらに世界の民族文化について学ぶ場として改めて周知することで、国際交流や異文化理解を促進する一助とする。

会期：9月19日（木）～12月3日（火）（67日間）

会場：万博記念公園内各施設（国立民族学博物館、EXPO'70パビリオン、大阪日本民芸館ほか）

主催：一般財団法人千里文化財団

助成：独立行政法人日本万国博覧会記念機構

協力：国立民族学博物館

2) 季刊誌『森発見』の編集・制作

季刊誌『森発見』：「自立した森再生センター」の活動を紹介した広報誌。第30号～第33号の編集を日本万国博覧会記念機構から受託し実施。「自立した森再生センター」は、日本万国博覧会記念機構が、日本万国博覧会（70年万博）跡地を「自立した森」として再生させる活動を強化するために、平成18年に設立。研究機関や民間団体等との連携により長期的な計画性をもった活動を進めている。

3) 「自立した森再生センター」活動記録の編集・制作

5.文化活動支援事業

多様な文化の浸透をめざし、各種文化活動を支援する。

1) 「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する業務

第 22 回「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する業務を受託し実施する。

※「松下幸之助花の万博記念賞」：「自然と人間の共生」という花の万博の基本理念の実現に貢献する、すぐれた学術研究や実践活動を顕彰している。

2) 日本展示学会の事務業務

日本展示学会の事務業務を受託し実施する。

※日本展示学会：展示に関する研究を、技術論だけでなく、社会的・文化的な観点からもひろく研究することを目的とした学会。1982 年に、国立民族学博物館において設立された。

3) 同人雑誌『千里眼』の編集・発行

同人雑誌『千里眼』：千里地域に居住あるいは仕事場をもつ知識人による同人雑誌
第 122 号～第 125 号の 4 号の編集を受託し発行する。

平成25年度収支予算書
 (正味財産増減計算ベース)
 (平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(単位:円)

科 目	予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A-B)	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	(50,000)	(50,000)	(0)	
基本財産受取利息	50,000	50,000	0	
受取会費	(48,300,000)	(50,600,000)	(△2,300,000)	
維持会員受取会費	19,200,000	20,000,000	△800,000	
正会員受取会費	27,000,000	28,500,000	△1,500,000	
家族会員受取会費	300,000	300,000	0	
キャンパスメンバーズ受取会費	1,200,000	1,200,000	0	
フリースペース会員受取会費	600,000	600,000	0	
事業収益	(272,540,000)	(272,740,000)	(△200,000)	
事業収益	63,690,000	66,432,500	△2,742,500	
受託事業収益	208,850,000	206,307,500	2,542,500	
広告収益	(600,000)	(600,000)	(0)	
広告収益	600,000	600,000	0	
受取助成金収益	(8,500,000)	(6,000,000)	(2,500,000)	
受取助成金	8,500,000	6,000,000	2,500,000	
雑収益	(10,000)	(10,000)	(0)	
受取利息	10,000	10,000	0	
経常収益計	330,000,000	330,000,000	0	
(2) 経常費用				
事業費	(292,540,000)	(294,900,000)	(△2,360,000)	
給料手当	122,500,000	129,000,000	△6,500,000	
臨時雇賃金	20,000,000	19,500,000	500,000	
退職手当	13,000,000	3,000,000	10,000,000	
法定福利費	20,500,000	21,500,000	△1,000,000	
福利厚生費	970,000	520,000	450,000	
旅費交通費	5,250,000	5,250,000	0	
通信運搬費	4,950,000	7,050,000	△2,100,000	
減価償却費	0	0	0	
事務委託料	9,800,000	9,800,000	0	
印刷製本費	25,500,000	30,830,000	△5,330,000	
諸謝金	1,600,000	1,300,000	300,000	
会議費	1,650,000	1,920,000	△270,000	
光熱水費	200,000	200,000	0	
消耗品費	900,000	900,000	0	
負担金	8,100,000	8,100,000	0	
原稿写真委託報酬	13,000,000	10,500,000	2,500,000	
支払手数料	600,000	700,000	△100,000	
賃借料	420,000	420,000	0	
修繕費	100,000	100,000	0	
著作権等使用料	100,000	100,000	0	
教材等製作購入費	43,000,000	43,810,000	△810,000	
教材出版物等棚卸差額	0	0	0	
館内サービス関係費	400,000	400,000	0	
予備費	0	0	0	

科 目	予算額(A)	予算額(A)	増減(A-B)	備 考
管理費	(35,700,000)	(34,160,000)	(1,540,000)	
給料手当	17,100,000	19,100,000	△2,000,000	
臨時雇賃金	960,000	0	960,000	
退職手当	3,400,000	2,400,000	1,000,000	
法定福利費	2,600,000	2,600,000	0	
福利厚生費	200,000	200,000	0	
旅費交通費	200,000	200,000	0	
通信運搬費	350,000	500,000	△150,000	
減価償却費	0	0	0	
事務委託料	0	0	0	
印刷製本費	250,000	100,000	150,000	
諸謝金	1,050,000	1,050,000	0	
会議費	380,000	380,000	0	
光熱水費	450,000	500,000	△50,000	
消耗品費	700,000	700,000	0	
負担金	150,000	150,000	0	
原稿写真委託報酬	1,960,000	160,000	1,800,000	
支払手数料	350,000	320,000	30,000	
賃借料	5,400,000	5,600,000	△200,000	
修繕費	200,000	200,000	0	
著作権等使用料	0	0	0	
教材等製作購入費	0	0	0	
館内サービス関係費	0	0	0	
雑費	0	0	0	
経常費用計	328,240,000	329,060,000	△820,000	
当期経常増減額	1,760,000	940,000	820,000	
2. 経常外増減の部				
当期経常外増減額				
当期一般正味財産増減額				
一般正味財産期首残高				
一般正味財産期末残高				
II 正味財産期末残高				